



7 小憩

池田勇八

一点

大正十一年(一九二二)

ブロンズ・鑄造

一四・七×五二・八×三〇・一

池田勇八(一八八六〜一九六三)は香川県出身。明治三十六年(一九〇三)に東京美術学校入学のため上京、同四十年に同校彫刻選科を卒業した。同期には朝倉文夫がおり、卒業式後、朝倉から動物作家になることを薦められた。上野動物園に通ってスケッチや塑造制作を行い、同四十二年の第三回文展に初入選を果たした。それ以降、文展への入選を重ね、大正八年(一九一九)の第一回帝展から無鑑査出品となり、翌年から同展審査員を務めた。文展初入選の年から、岩手県小岩井農場や千葉県三里塚の下総御料牧場(現三里塚記念公園)で制作を行った。昭和戦前期には年間の三分の一程度を三里塚で過ごし、皇族方の乗馬像の御用命を承けるなど、馬の彫刻の第一人者としての名声を確立した。

大正十一年の第四回帝展出品作である本作は、地面に腰掛けた騎手とその傍らに大人しく佇む一頭の馬を表している。池田は同七年から下総御料牧場にアトリエを構えて制作をしており、本作も同地で取材したものとみられる。馬の彫刻家として知られる池田らしく、馬体は肉付きまでよく表されているのに対して、人は塑造の風合いを残したままの表現にとどめられている。池田は躍動感のある作品よりも静的な作品を多く残したが、対象の外面描写よりも内面の心理描写に関心が向けられた本作では、人と馬が親しげに心を通い合わせる光景から心穏やかな安寧さを感じられる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan